

私がこの社会でやってきたこと

ロシア語教育と研究活動への関わり

－言葉の背景にある文化・社会に触れながら知見を深める力を養う－

鈴木 理奈（札幌医科大学 ロシア語講師、平成3年度卒）

私は外国語学部ロシア語学科を卒業してから、名鉄観光サービス株式会社に就職し、会社の新事業となる対ロシアのインバウンド業務に携わり、北海道全域の支店を管轄する北海道支社の海外課に配属されてからは海外全般を対象とする業務に取り組み、社会経験を積んだ後、ロシアに留学し、モスクワ国立大学大学院文献学研究科ロシア語専攻の修士課程および博士課程を修了しました。

博士(PhD)学位論文発表においては、ロシア語学審査委員会から学位論文を評価いただき、満場一致で博士(PhD)(文献学)専門分野ロシア語の学位を授与されました。

研究テーマは、ロシア語学の統語論を中心に、とりわけ前置詞と数量名詞により構成される統語素が成す機能的構造の分析や、ロシア語の品詞分類における数詞の変遷の考察などになります。

大学院在学中から行ってきた研究活動では、自身の研究テーマとなるスラブ語における前置詞および前置詞相当項に関わる共同プロジェクトの一環として、ロシアだけでなく、ウクライナ、ポーランド、ブルガリアで開催される学会やシンポジウムに参加し、研究発表を行い、各国の研究者達と交流する機会にも恵まれました。

ロシアで大学院を修了後、日本に帰国し、札幌医科大学をはじめとする、大学教育の場や省庁などでロシア語講師をしております。日本でロシア語教育を行うにあたり、ロシアで学んだ外国人向けロシア語教授法は大いに役立ち、授業の進め方や使用教材など参考にして取り入れています。

ロシア留学においては、授業受講や研究活動を行う以外に、まず現地での生活に慣れることが必要となり、これは文化習慣や社会を知る上でも貴重な経験を得る大きな学びであると言えます。

言語は人間のコミュニケーション手段の一つであり、その言葉を話す人々の国の文化や社会と密接に関係しています。長期に滞在し生活する中で、ロシアの言葉や表現の背景に存在する意味が見えてくると、より奥深い理解が得られたりもします。書物や映像を利用して学習することは大切ですが、実際に自分の目でその姿を見るということの意義はとて大きいものと言えます。今後も、異文化に触れたいという気持ちや、幅広い視点から多角的多面的に物事を見て考えようとする、グローバルな力を養う教育に努めていきたいと思っています。

研究業績

[著書]

- ・『ロシア語 CEFR 準拠外国語教材』(共著, 室蘭工業大学・同学社 (2012 年以降), 2010 年 4 月初版 2018 年 4 月迄改訂版刊行)
- ・『ロシア語入門』(共著, SI 図書企画, 2023 年 4 月)

[主な学術論文]

- ・『Словоформы параметрических существительных как корреляты предлогов: структура и управление (前置詞相当項としての数量名詞語形: 構造と格支配)』(単著, Е.Ф. Карский и современное языкознание. Материалы 10-х международных чтений. (Е.Ф.カールスキーと現代言語学・第 10 回国際学会論文集) (ペラルーシ), 2005 年 10 月)
- ・『Структура словоформы предложных существительных-коррелятов предлога (前置詞的名詞語形-前置詞相当項の構造)』(単著, Лінгвістичні Студії. Збірник наукових праць. Випуск 14. Донецький національний університет. (言語学学術論文集 第 14 号・ドネツク国立大学) (ウクライナ), 2006 年 4 月)
- ・『Поле количественности и "параметрические предлоги" в русском языке (ロシア語における数量的「場」と“数量的前置詞”)』(単著, Вестник Московского университета. Сер.9: Филология. №5. (モスクワ国立大学論文誌・シリーズ 9: 文献学・第 5 号) (ロシア), 2007 年 9 月)
- ・『数量性の機能・意味的カテゴリー - 数量名詞の語形構造による定語的表現体系 -』(単著, 日本ロシア文学会「ロシア語ロシア文学研究」第 42 号, 2010 年 11 月)
- ・『Понятие количественности в русском лингвистическом материале (в зеркале японского языка) (ロシア言語資料に見られる数量性の認識(日本語との対比において))』(単著, Frazeologia a językowe obrazy świata przerwom wieków. (時代の境界線における世界の慣用表現と言語的描写・国際学会論文集), オポーレ大学 (ポーランド), 2014 年)
- ・『ロシア語における品詞分類の変遷と数詞の誕生』(単著, 北海学園大学人文学部「人文論集」第 71 号, 2021 年 8 月)

[主な学会発表]

- ・『Словоформы параметрических существительных как корреляты предлогов (前置詞相当項としての数量名詞語形)』(МАПРЯЛ. III международный конгресс русского языка «Русский язык: исторические судьбы и современность» (国際学会 МАПРЯЛ(ロシア言語文学教師国際学術協会)・第 3 回ロシア語国際会議「ロシア語: 歴史的運命と現代»), モスクワ国立大学 (ロシア), 2007 年 3 月)
- ・『数量名詞語形による前置詞相当項の“数”と“物”を指標とする表現』(日本ロシア文学会第 60 回研究発表会, 熊本学園大学, 2010 年 11 月)
- ・『Категория русского предлога в традиционной и функциональной грамматиках (規範的および機能的文法におけるロシア語の前置詞カテゴリー)』(国際スラヴィスト会議スラヴ語文法構造研究部会共催国際シンポジウム「スラヴ諸語における文法化と語彙化」, 北海道大学スラブ研究センター, 2011 年 11 月)
- ・『Формальный состав и функция предложных единиц с параметрическим значением в русском языке (в зеркале японского языка) (ロシア語における数量的意味を伴う前置詞的単位の形態的要素と機能(日本語との対比において))』(II Международный научный симпозиум «Славянские языки и культуры в современном мире» (第 2 回国際学術シンポジウム“現代におけるスラヴ言語と文化”), モスクワ国立大学 (ロシア), 2012 年 2 月)
- ・『Средства выражения категории количественности в русском языке в сопоставлении с японским языком (日本語との比較におけるロシア語の数量性カテゴリーの表現手段)』(МАПРЯЛ. XI международный симпозиум. Теоретические и методические проблемы русского языка как иностранного. Новые информационные технологии в лингвистической и методологической науке (国際学会 МАПРЯЛ(ロシア言語文学教師国際学術協会)・第 11 回国際シンポジウム・外国語教育としてのロシア語理論と教授法問題・言語学および教育学における新しい情報技術), ヴェリコタルノヴォ大学 (ブルガリア), 2014 年 4 月)